

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
文化・教養	芸術専門課程	グラフィックデザイン科				平成22年文部科学大臣 告示第30号	-																		
学科の目的	Macによるデザイン制作・画像加工の基礎から、ポスター・フライヤー・雑誌等印刷のためのコンピュータによる印刷入稿データ(DTP)技術の修得、デッサン・色彩・平面構成からグラフィック・イラストレーション等デザインセンスの基礎から応用を修得し、実践的な能力を備えた広告・印刷業界で活躍する人材を育成する。																								
認定年月日	平成27年2月17日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																	
3年	昼間	2490		690		3120		時間																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
120人		138人		5人	3人	9人	12人																		
学期制度	■前期：4月1日～10月11日 ■後期：10月12日～3月31日				成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																			
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日				卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																			
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席学生については当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動： 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) アド・コマース株式会社 株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント 株式会社クライム 水上印刷株式会社 株式会社平賀 ■就職指導内容 学生個々の適正に合った企業紹介、履歴書添削、面接対策、ポートフォリオ指導を担当・進路担当教員が指導している。 ■卒業生数 28 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 22 人 ■就職率 88.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 79.3 % ■その他 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>22</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄(受賞) ●公益社団法人日本広告制作協会主催「第8回OAC学生広告クリエイティブアワード」グラフィック部門不二家アワード/佐藤 晴香 ●公益社団法人日本広告制作協会主催「第8回OAC学生アイデアで社会をよりよくするアイデアコンテスト」OACシルバー賞/山本 柚里 ●公益財団法人エイズ予防財団「令和元年度 世界エイズデーポスターコンクール(一般の部)」最優秀賞/関戸 啓織				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定3級	③	22	12	色彩検定2級	③	2	2	ビジネス能力検定	③	28	28
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
色彩検定3級	③	22	12																						
色彩検定2級	③	2	2																						
ビジネス能力検定	③	28	28																						

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 1.7% (休学者3名含まず)</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者120名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者117名(令和2年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的事情、意欲喪失、病気療養が主な理由。</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ・片柳学園入学学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 <a href="https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/">https://www.neec.ac.jp/department/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。
- ② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※ 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザイン分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
浅野 健	印刷工業会副会長／株式会社金羊社代表取締役会長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	①
古木 勝紀	三本旗 合同会社・アートディレクター	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	③
犬飼 健二	有限会社犬飼デザインサイト取締役社長・アートディレクター	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	③
才丸 大介	株式会社カオルコーポレーション 企画戦略室・室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	
山口 卓司	日本工学院八王子専門学校 科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（3月・9月）

(開催日時(実績))

第1回 令和1年8月29日 15:00～17:00

第2回 令和2年9月11日 17:00～19:00

\*当初3月10日に実施を予定していたが、コロナウィルス感染予防の観点から延期して開催

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

昨年8月に行った教育課程編成委員会では、本科2年生が企業や地域の団体等と連携して行ってきた実践的課題（三菱鉛筆の製品販売容器のデザイン、キャノンマーケティングジャパンの製品広告デザインなど）が高く評価された。よって、こうした学校外の企業や団体と連携した実践的なデザイン課題を早い段階から経験する試みもしてみようと考え、1年次後期に社会福祉法人との連携課題を設定し、シンボルマークデザインの課題を行った。クライアントワークははじめての経験だったが、グラフィックデザインの専門技術の基礎を学ぶ1年次学生にとっては、学んだ技術の応用の場となり、意欲的に取り組むことができ、学生の成長を確認することができた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を受けるにあたり、関連分野の実績や、知識、技術、制作管理能力に基づく指導力を有する講師の派遣協力が得られる企業を選定し、両社で合意したシラバスに基づき授業運営を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学科担当教員と企業派遣講師との間でデザイン技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に授業を行う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グラフィックデザイン 実習2B	タイポグラフィ、ピクトグラムなどの制作を通し、情報をグラフィカルに表現する技術を学ぶ。	Katavami+（カタバミプラス）
グラフィックデザイン 実習3C	PCによるデザインとレイアウトについて学び、ポスターやカタログ等の入稿までのルールを学ぶ。	有限会社ブレイドデザイン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「デザインカレッジにおける問題点の共有とその改善策」（連携企業等：㈱クリーク・アンド・リバー）

期間：令和1年8月1日（木）

対象：グラフィックデザイン科教員

内容：デザイン系のスキルを学ぶ学生固有の問題点を洗い出し、その改善案を探る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「現役高校教諭による高校の現状と高校生の動向」

期間：令和1年8月1日（木）

対象：グラフィックデザイン科教員

内容：中間恒男講師（東京都立多摩高等学校/多摩地区高等学校進路指導協議会）による、高等学校の教育現場と生徒指導の現状についての講義。問題を抱えている学生への指導や学校対応、専門学校または大学への進路指導についての考え方や具体的な指導内容についての解説。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「デザイン、印刷、コンテンツ業界の現状と展望」

(連携企業等：未定)

期間：令和2年8月または令和3年3月

対象：グラフィックデザイン科教員

内容：デザイン業界のテクニカル面の新しい情報を収集。授業への展開について考察する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生指導の新しいスキル」

(連携企業等：未定)

期間：令和2年8月または令和3年3月

対象：グラフィックデザイン科教員

内容：時代とともに変化する学生の気質を分析し、様々な指導方法を吸収する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カレッジを超えたラボレーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用しやすいIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社ヌーベルバーグ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) ) 令和2年9月30日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程グラフィックデザイン科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	社会人に求められるマナーやコミュニケーション能力について学ぶ。デザイン業界の知識および社会人としてのルールやマナーの知識を深めることと、適切な自己分析に基づき、学びを活かした進路について考えることを目的としている。	1・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	この授業では自分なりのキャリアデザインを考え、社会人として必要な一般教養についての理解を深めることとビジネス能力検定ジョブパス3級の合格を目指すことがねらいである。	1・後	30	2	○			○			○	
○			デザイン概論	本講義は、デザインの勉強を始める学生を対象とし、「基本的なデザイン用語の理解」、「隣接学問領域との差異からデザイン領域特性の理解」、更に「デザインの歴史的変遷」、社会の変化、技術の変化に伴う「デザインの役割、技法の変化を考察」をすることで、21世紀の現代でデザインを考える上で必要となる基礎的な知識、思考方法を身につける事を目的とする。	1・前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション論	デザイナーと社会の関わり方を学んでいくことで、「デザイン=コミュニケーション」であることを理解し、コミュニケーションツールとしてのデザインの知識を拡げることは1年次グラフィックデザイン科学生にとって後の課題制作につながる重要なヒントとなる。社会の中の様々なデザインに目を向け、その繋がりを実感することがねらいである。	1・前	30	2	○			○			○	
○			美術概論	「アートとデザイン」の関係は、「サイエンスとテクノロジー」の關係に似ていると言われている。美術の全般的な知識を得る事で、デザインへの新たな視点を得る事を学習の目的とする。その為には先ず「美術がどのような視点、観察眼」で作品を作り続けてきたのかという事を知る必要がある。美術作品を観察、読解、技法を理解することから「美しさの創造性」「表現の創造性」への理解を深める方法の取得を目的とする。	1・後	30	2	○			○			○	

○		DTPデザイン概論	デザイン制作の現場についてその概要を学び、手段としてのDTPの役割と実態を理解する。また印刷物の役割と形にするプロセスやルールを理解することが目的である。	1・後	30	2	○			○		○		
	○	資格対策講座1	色彩検定などの資格取得に向けての講座です。	1・通	30	2	○			○				○
	○	資格対策講座2	色彩検定3級を取得するために、色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。	1・通	30	2	○			○				○
○		基礎デザイン実習A	鉛筆によるデッサンやスケッチを通じて観察力、基礎描写力を身につける。たとえデジタル環境に従事するデザイナーであろうとも、情報を伝達する為に考えをビジュアルに置き換える能力は必要である。本授業では、デザイナーとして必要な描画力を身に付けるものをねらいとする。なお、ここで言う描画には観察と作図、色彩計画を含める。	1・前	60	2			○	○			○	
○		基礎デザイン実習B	さまざまな素材を使いながら立体・空間構成力を身につける。立体造形を通じ、デザインにおけるアイデア展開力・素材に関する知識を習得する。身近にある紙や木、スチレンボードといった加工しやすく扱いやすい素材をテーマに様々な視点から作品を創出できる感覚を養う事が目的である。また他の学生の作品を横に見ながら制作する事で完成度のレベル、工夫の仕方等を学んでいく。	1・前	60	2			○	○			○	
○		基礎デザイン実習C	形態、素材、色彩、構造について学び、平面構成力を身につける。平面・立体構成力の基礎を身につける。目的と用途に応じて求められている情報を理解し、教員とのコミュニケーションを図りながら制作過程から完成するまでのスキルを習得する。また、自分が制作した作品について明確に説明できるようプレゼンテーションの基礎を養うことを目的とする。	1・前	60	2			○	○				○
○		基礎デザイン実習D	PC用デザインツールのIllustrator、Photoshopの知識と基礎技術を身につけます。実際にデザインツールとして使用することを前提とした身近な小型グラフィック（名刺・ポストカードなど）の制作における基本的なワークフローを学ぶ。	1・前	60	2			○	○				○
	○	グラフィックデザイン実習1A	この科目は、グラフィックデザインの基礎スキルとしてシンボルマークやロゴタイプの制作を行う。制作を通じて、イメージを強調、省略して図案としてまとめていくプロセスを学ぶとともに、ドローイングスキルの向上も目的としている。	1・前	60	2			○	○			○	

		○	グラフィックデザイン実習1 B	この科目は、実際にアナログ制作に使用する道具を使い、基本的なワークフローを交えながら、イラストレーションの描画を行う。制作を通じて、絵の具、筆、紙、キャンバスといった、道具の扱い方を学ぶとともに、課題となるテーマを、自身の中で昇華し、イラストレーターとして必要な表現力を学ぶことを目的としている。	1・前	60	2				○	○					○	
○			総合実習1	この科目は総合的な課題制作を通じて前期に学んできた知識、技術の定着を図ることを目的としている。具体的には以下のことを目的としている。①制作を通じてPCを用いたグラフィックデザイン全般の基礎知識を確認する。②制作プロセスにおいて、教員、学生間でコミュニケーションをとりながら表現をまとめる。③教員、学生に対して明確に説明伝達するスキルを習得する。	1・前	60	2				○	○					○	
○			グラフィックデザイン実習2 A	この科目は総合的な課題制作を通じて後期に学んできた知識、技術の定着を図り2年次の専攻選択につなげていくことを目的としている。具体的には以下のことを目的としている。①制作を通じてPCを用いたグラフィックデザイン全般の基礎知識、またドローイングスキルを確認する。②制作プロセスにおいて、教員、学生間でコミュニケーションをとりながら表現をまとめる。③教員、学生に対して明確に説明伝達するスキルを習得する。	1・後	60	2				○	○					○	
○			グラフィックデザイン実習2 B	この科目はタイポグラフィ、ピクトグラム等の制作を通じ、情報をグラフィカルに表現する技術を学ぶ。PCを用いたグラフィックデザイン全般のデータ作業の基礎を学ぶと共に、データ制作のノウハウ、目的と用途に応じて求められる情報を整理する。	1・後	60	2				○	○					○	○
○			グラフィックデザイン実習2 C	この科目では、PCを使用したレイアウトデザインの基礎を学び、実際入稿できるデータ制作のスキルを身につけることを目的とする。主にデザインに必要なツールの使い方から、レイアウトには欠かせない文字組版の基礎を丁寧に学び、フライヤー程度の印刷物の制作を通して、最終的にはデザイン内容・データともに実際入稿に問題のないクオリティのデータを制作できることを目指す。	1・後	60	2				○	○					○	

		○	<p>広告・雑誌デザイン実習</p>	<p>商業におけるグラフィックデザインの役割を探求することにより、基礎から実践レベルへのデザインスキルを身につける事を目的とする。広告物制作に必要な文字構成力、ロゴ作成、画像加工などの基本スキルを身につける。商標、販促物のデザイン制作を通じて、ブランディング（ブランドを消費者に認知させ、市場における企業のイメージ、商品のポジションを明確化させること）の基礎を学ぶ。</p>	1 ・ 後	60	2				○	○					○
		○	<p>イラスト・絵本実習</p>	<p>この科目は、実際にアナログ制作に使用する道具を使い、基本的なワークフローを交えながら、イラストレーションの描画を行う。制作を通じて、絵の具、筆、紙、キャンバスといった、道具の扱い方を学ぶとともに、課題となるテーマを、自身の中で昇華し、イラストレーターとしてグラフィックデザインの中での魅せ方について、必要な表現力を学ぶことを目的としている。</p>	1 ・ 後	60	2				○	○					○

○		総合実習 2	この科目は総合的な課題制作を通じて後期に学んできた知識、技術の定着を図ることを目的としている。具体的には以下のことを目的としている。①制作を通じてPCを用いたグラフィックデザイン全般の基礎知識を確認する。②制作プロセスにおいて、教員、学生間でコミュニケーションをとりながら表現をまとめる。③教員、学生に対して明確に説明伝達するスキルを習得する。	1 ・ 後	60	2					○	○		○			
	○	デザイン研修 1	デザイン研修は、デザイナーとしての視野を広げるため行う、短期研修プログラムである。訪問する地域・施設・文化の中で行われる見学や交流プログラム、制作体験などを通じて、言語や地域を越えてのデザインの役割やコミュニケーションの大切さを学ぶことを目的とする。	1 ・ 後	30	2	○						○	○			
○		キャリアデザイン 2	デザイン業界の知識を深めることと適切な自己分析に基づきグラフィックデザイン科での学びを活かした進路について考えることがねらいである。自分にとってのキャリアデザインの具体的な目標を持ちやるべきことを明確にすることと、前向きな姿勢を課題制作等の日々の学校生活に活かしていくことを目的としている。	2 ・ 前	30	2	○				○			○			
○		キャリアデザイン 3	デザイン業界の知識を深めることと適切な自己分析に基づきグラフィックデザイン科での学びを活かした進路について考え、進路選択にあたっての具体的なノウハウについて学ぶことがねらいである。	2 ・ 後	30	2	○				○			○			
○		コンセプトワーク	この科目を受講する学生は、あらゆるデザイン制作がコンセプトを基に進められることを理解し、簡潔な言葉を用いた自己のデザインの方向性を表現できる様になる。様々な発想法を学びながら利己的な表現からの脱却と、第三者の為に必要な独創性の高いデザインを探究する。伝達力と有用性の高いデザイン・コンセプトを構築し、実践社会で活用する事がねらいである。	2 ・ 前	30	2	○				○						○
○		作品研究1	本授業では、「作品」を人の手によって意識的に生み出されたモノやコンテンツとして捉えている。他者が制作した「作品」を通じて他者の想いを慮り、また「作品」を通じて自分の視点を明確にして、考えや思いを他者に伝えられることはクリエイターとしての第一歩である。本授業では、作品を通じて作者と、そして他者とのコミュニケーションを行っていくことを目的としている。	2 ・ 前	30	2	○				○			○			

○		作品研究2	クリエイターとして作品をただ鑑賞するだけではなく、多面的に分析、考察をして自分の制作に活かす力にすることがねらいである。また今後の制作活動において必要となるリサーチ力、分析力の向上も目的としている。	2・後	30	2	○			○								
○		知的財産権/リテラシー	インターネットの普及により、ありとあらゆる情報を瞬時に得られることができるようになったが、一方で他者の知的財産物に対する意識が欠如し、知的財産物の盗用・不正利用などが相次いで報道されている。この授業では、デザイナーまたは一社会人として、どのように知的財産権と向き合うかを学ぶ。また、メディアについて様々な事例を通して、それらの「読み取り方」を身につけることを目的とする。	2・後	30	2	○			○								
	○	資格対策講座3	色彩検定3級を取得するために、色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。	2・通	30	2	○			○								○
	○	資格対策講座4	色彩検定3級を取得するために、色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。	2・通	30	2	○			○								○
○		グラフィックデザイン実習3A	この科目は実際にデザインツールとして使用することを前提としたポスターやカタログ等の制作における基本的なワークフローを学ぶ。制作を通じてPCを用いたグラフィックデザイン全般のデータ作業について学ぶと共に、目的と用途に応じて求められている情報を整理した上で制作プロセスにおいて、教員、学生間でコミュニケーションをとりながらグラフィカルに表現し、クライアントに対して明確に説明伝達するスキルを習得する。	2・前	60	2				○	○							○
○		グラフィックデザイン実習3B	デザインの素材として最も重要な写真と動画の撮影方法と素材の活かし方を理解する。本科目では、単なる撮影手法を学ぶだけにとどまらず、写真素材によってどのようにデザインが変化するかを身を以て体験。その重要性と難しさを理解する。	2・前	60	2				○	○							○
○		グラフィックデザイン実習3C	ポスターやカタログ等の基本的なワークフローを課題制作を通じて実践することでPCを用いた情報デザインとレイアウトについて学ぶと共に、入稿を前提としたデータ制作スキルを習得することがねらいである。	2・前	60	2				○	○							○
	○	広告デザイン実習1	この科目では、商品やイベント等の販促につながる印刷物の制作を学ぶ。具体的にはエンドユーザーに情報を正確に伝えるために、内容と用途を理解し、複数に及ぶ項目を整理し構成できること、また、テキストのみのデータを図案化する力を身につけ、複雑化する情報群をさらにわかりやすく表現するノウハウを学ぶことを目的としている。	2・前	60	2				○	○							○

		○ 雑誌デザイン実習1	実際に小冊子を製作。企画立案から取材、デザインまで、雑誌が完成して行くまでの流れをすべて学習することで企画力、撮影、取材の技術、基本的なページデザインの考え方を身につける。様々な編集、カメラマン、ライター、デザイナーという様々な役目を一人、あるいはチームでこなすことで、雑誌が実際に作られて行くうえでのワークフローを学ぶ。	2・前	60	2				○	○				○
		○ イラストレーション実習1	現在は2DCGとしてのデジタル描画を中心として、ソフトウェアを柔軟に使いこなし、なおかつ画力に優れた作品が描ける人材が以前にも増して求められている。それをふまえてPCによる描画、データ作成および管理能力を身に付けることがこの授業の目的である。また写実的な絵としての完成度を高める上でのデッサン力、色彩感覚の向上は必須で、いかなる条件にも対応できる高い技術力を持つことがねらいである。	2・前	60	2				○	○				○
		○ 絵本実習1	この科目では、絵本制作において必要なテーマ設定・キャラクター設定・ストーリー構成の基本を学び、物語作品の制作過程で自らの発想を構成・表現・伝達する技術を実技として修得し、自己表現の手段としては勿論、それに留まらず社会に活かすことのできるデザイン・イラストのビジュアル媒体としての役割をイメージし創作でき、またその作品について言葉で説明・紹介できる能力を獲得することがねらいである。	2・前	60	2				○	○				○
		○ 絵本実習2	この専攻科目では、前期で修得した物語制作への技術を土台として描画・ストーリー実習においては更なる独自性と確実な伝達表現の追求を目的とし、製本実習においては手製本では実際の作業から基礎的な技術を習得するとともに発注製本ではデータ入稿の手順を学ぶ。	2・後	60	2				○	○				○

○		総合実習3	この科目は総合的な課題制作を通じて前期に学んできた実践的課題の知識、技術の定着を図ることを目的としている。具体的には以下のことを目的としている。①制作を通じてPCを用いたグラフィックデザイン全般のワークフローと入稿を前提とした知識を確認する。②制作プロセスにおいて、教員、学生間でコミュニケーションをとりながら表現をまとめる。③教員、学生に対して明確に説明伝達するスキルを習得する。	2 ・ 前	60	2				○	○								
	○	グラフィックデザイン実習4A	企業や商品のブランディングの仕方、広告におけるアートディレクションの重要性を理解し、自分で考えたコンセプトに基づいたビジュアル作りの方法を学ぶ。制作を通じてデザイン作業を学ぶと共に、写真についてのディレクションや目的に応じた画像処理の仕方などを学ぶことにより、トータルディレクション能力を身につけることを目的としている。	2 ・ 後	60	2				○	○								○
	○	グラフィックデザイン実習4B	この科目はグラフィックデザインの印刷知識・画像編集の知識・技術の理解を深め、制作における基本的なワークフローを学ぶ。また、デザインの各種スキルを習得し、課題に活かす。PCを用いたグラフィックデザイン全般のデータ作業の応用を学ぶと共に、データ制作のノウハウ、目的と用途に応じて求められている情報を整理した上で、教員と学生間でのコミュニケーションをとりながら作業を行っていく。	2 ・ 後	60	2				○	○								○
	○	グラフィックデザイン実習4C	デザインの素材として最も重要な写真と動画の撮影方法と素材の活かし方を理解する。前期に学んだ基礎知識を生かし、より高いレベルでの撮影と作品制作を行う。撮影では他のメンバーとの共同での撮影などを体験することで、デザイナーとしての知識のみならず、コミュニケーションを含んだ人間力の向上を目的とする。	2 ・ 後	60	2				○	○								○
	○	広告デザイン実習2	この科目では、前期に引き続き商品やイベント等の販促につながる印刷物の制作を学ぶ。前期で学んだ情報整理のスキルをベースに、販促物に必要な集客ツールとして有効な印刷物の見せ方やそのあり方を学ぶことと、よりボリュームのある組版設計ができるよう構成力を高めることを目的としている。	2 ・ 後	60	2				○	○								○



		○ デザイン研修2	デザイン研修は、デザイナーとしての視野を広げるため行う、短期研修プログラムである。訪問する地域・施設・文化の中で行われる見学や交流プログラム、制作体験などを通じて、言語や地域を越えてのデザインの役割やコミュニケーションの大切さを学ぶことを目的とする。	2・通	30	2	○												
○		キャリアデザイン4	適切な自己分析に基づき学科での学びを活かした進路について考え、個別の就職活動の実践と反省、行動を促すことがねらいである。日々の課題制作と並行して進路決定を実現していくために、計画を立て、教員とコミュニケーションを図りながら3年生として自律した行動ができるようになることも目的としている。	3・前	30	2	○						○						
		○ キャリアデザイン5	前期科目《キャリアデザイン4》に引き続き、「適切な自己分析に基づき学科での学びを活かした進路について考え、個別の就職活動の実践と反省、行動を促すことがねらい」で授業を行う。また、社会人として働くことについての意識を向上させることを目的とする。	3・後	30	2	○						○						
		○ 資格対策講座5	色彩検定2級、3級を取得するために、色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。	3・通	30	2	○						○						○
		○ 資格対策講座6	色彩検定2級、3級を取得するために、色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。	3・通	30	2	○						○						○
		○ グラフィックデザイン実習5A	アートディレクターとしての観点から企業や商品のブランディングを企画・制作する。また1～2年次実践課題の集大成として表現手段や技術の確認と定着を図ると共に目的に対して首尾一貫した論理的思考に基づいた企画の構成力を養い、デザイナーとしての実践力を身につけることがねらいである。	3・前	60	2							○	○					○
		○ グラフィックデザイン実習5B	この科目では、PCを使用したレイアウトデザイン全般のトレーニングを行ない、スキル向上を目指す。主にフライヤーからポスター、パンフレットまでの幅広い紙媒体のレイアウトに取り組み、これまでのレイアウトスキルを定着させつつ、これからのデザインに必要とされる新たなデジタルスキルを身につけることを目的としている。	3・前	60	2							○	○					○
		○ 広告デザイン実習3	この授業は広告デザインに必要となる思考力と表現力の向上を目的としている。実践課題の集大成としてブランディング等の課題を通して広告デザインの実践力を身につけることがねらいである。持つ魅力のある表現や興味を持った新しい表現を身につけることができるようにしていく。	3・前	120	4							○	○					○



		○ インターンシップ2	インターンシップは、学生がデザインの仕事を体験するために、実際のデザイン会社で短期間働くことを認める選択科目である。実際のデザイン会社で働くことで、業界や会社が求める人材像や表現力・技術力をしっかりと理解し、進路決定あるいは卒業までの目標を明確に定めることが目的である。	3 ・ 通	60	2				○		○	○		
		○ デザイン研修3	デザイン研修は、デザイナーとしての視野を広げるため行う、短期研修プログラムである。訪問する地域・施設・文化の中で行われる見学や交流プログラム、制作体験などを通じて、言語や地域を越えてのデザインの役割やコミュニケーションの大切さを学ぶことを目的とする。	3 ・ 通	30	2	○					○	○		
合計				63 科目	3810単位時間 (150単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1890時間(76単位)および選択科目600時間(20単位)以上取得し、合計2490時間(96単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。